

2022 年度 一橋大学 前期 世界史

第1問

東方貿易や十字軍によってビザンツ帝国やイスラーム世界との接触が進み、またギリシア・ローマの古典文献がギリシア語やアラビア語からラテン語に翻訳された。商工業活動の拡大により中世都市が発展したことにも支えられ、ローマ法や哲学などの研究が発達した。皇帝に服属していた北イタリア諸都市では大商人などの有力市民が台頭し、叙任権闘争などで皇帝と教皇が対立したことを利用し特許状を得て自治都市となったが、統治組織と法整備のため法知識をもつ人材を必要とした。そのためボローニャには修道士や学生が集まり自治的組織として大学が成立し、一方で移住した人々に対する迫害も発生した。フリードリヒ 1 世はローマ法に基づく普遍的皇帝理念を掲げ、教会法の整備を進める教皇に対する優位を獲得するためイタリア政策を進め、北イタリア諸都市と対抗した。そこでローマ法研究で名高いボローニャ大学に自治権を与え、また法学者や学生らの保護を行った。(400 字)

第2問

バイデンが念頭に置くニューディール政策は、自由放任主義のフーヴァー共和党政権下に悪化した恐慌対策としてフランクリン＝ローズヴェルト民主党政権が実施し、TVA などの公共事業、金融への規制、社会保障法などの福祉政策やワグナー法などの労働者保護からなる。「大きな政府」による福祉国家路線は英国の経済学者ケインズにより理論化され修正資本主義とよばれ、大戦後トルーマン、ケネディら民主党政権に継承され、ジョンソン政権は「偉大な社会」を掲げ、医療保険制度の導入など貧困の撲滅を図った。しかし 70 年代に石油危機を契機に発生した不況とインフレが同時に起こるスタグフレーションの恒常化に修正資本主義は有効な対処策を提示できず、社会保障費増大による財政赤字拡大や経済停滞を招いたとして批判された。その結果、レーガン共和党政権下で規制緩和や福祉縮小などで「小さな政府」を作り市場の競争原理を極端に重視する新自由主義が台頭した。(400 字)

第3問

1 朴正熙大統領の暗殺後、軍部クーデタで権力を握った全斗煥が光州事件で民主化運動を弾圧した。2 壬辰・丁酉倭乱。豊臣秀吉が朝鮮に明遠征への協力を拒絶されたため、朝鮮に派兵した。一時朝鮮全土を制圧したが、李舜臣の水軍の抵抗、明からの援軍で後退し、秀吉の死後撤退した。明は多額の戦費で財政難となり衰退に向かった。3 朝鮮への宗主権維持を狙う清と、朝鮮と清の離反を狙う日本の間で朝鮮の閔氏政権は開化政策を採ったが、大院君派が壬午軍乱を起こすと、清が鎮圧した。以後、清朝は李鴻章が主導して朝鮮に対する宗主権強化を図ったため、朝鮮では清との関係を重視する閔氏政権と日本に接近する急進開化派が対立した。急進開化派は日本の支持で甲申政変を起こしたが清に鎮圧され、日清両国は天津条約を結んで撤兵した。清は朝鮮への支配を強めたが、甲午農民戦争を機に日清戦争が勃発すると、日本は朝鮮に開化派政権を樹立し、甲午改革を実施させた。

(問題番号を含めて 400 字)

©駿台予備学校